

北医療薬会報

発 行 所 北海道石狩郡当別町金沢 1757 番地
北海道医療大学薬学部同窓会

☎ (0133) 23-0301 直通・FAX
☎ (0133) 23-1211 大学代表
発行人 桂 正 俊



目 次

巻頭挨拶 北海道医療大学 薬学部長 浜上 尚也 教授	3
北医療薬会報 31 号発行にあたり 同窓会広報委員 早坂 敬明	4
第 45 回 北医療薬 総会および懇親会について	4
第 5 回 薬学部同窓会 「卒業生・在校生合同懇談会」の報告	5
定年退職される先生をご紹介します	5
定年退職される先生からのメッセージ 飯塚 健治 教授 薬理学講座（病態生理学）	6
医療職体験ビレッジ～見る知る医療・福祉系専門職～ 開催報告 22 期 薬理学講座（薬理学） 町田 拓自 先生	7
薬学部特別イベント「薬剤師を体験しよう in 青森」 開催報告 29 期 薬理学講座（病態生理学） 鹿内 浩樹 先生	8
医療職体験ビレッジ in 函館 開催報告 40 期 薬理学講座（薬理学） 志賀 咲紀 先生	9
13 期同期会の開催 13 期 実務薬学講座（実務薬学教育研究） 早坂 敬明 先生	11
16 期生《平成 5 年卒（平成元年入学）》 卒後 30 周年同期会開催 16 期 実務薬学講座（病院薬学） 高村 茂生 先生	11
編集後記	12

巻 頭 挨拶

「母校との絆を大切にし、未来の薬学を共に創る」

北海道医療大学 薬学部長 浜上 尚也 教授

同窓生の皆様、いかがお過ごしでしょうか。私は 2024 年 4 月より母校の薬学部長を拝命し、こうして同窓生の皆様にご挨拶できることを、大変光栄に思います。

母校で学び、研究に励んだ日々を振り返ると、薬学という学問の奥深さ、そして社会への貢献の大切さを改めて実感します。私自身、研究者として、また教育者として歩んできましたが、その原点には常に東日本学園大学（北海道医療大学）での学びがありました。卒業生としての誇りを胸に、今度は次世代の薬剤師・研究者を育てる立場として、母校の発展に尽力してまいります。



近年、医療・薬学分野は目覚ましい進化を遂げています。新薬の開発、AI やデジタル技術の導入、個別化医療の進展など、私が学んだ時代とは大きく異なる環境になりつつあります。その中で、母校の薬学部も時代の変化に対応しながら、より高度な教育・研究を推進しています。

同窓生の皆様は、医療・研究・企業・行政など、さまざまな分野でご活躍されていることと思います。母校の発展には、皆様の支えが欠かせません。同窓生同士の交流を深めながら、学生への支援や研究活動の推進など、より良い未来の薬学を築いていくために、ぜひお力をお貸してください。

本学は 2024 年に創立 50 周年を迎えました。また、2028 年には大学キャンパスが北広島へと移転いたします。全国で活躍する同窓生 6,800 名のお力添えがあつてこそ、大学の大きな発展へと繋がっていきます。

最後に、同窓生の皆様のご健康とご活躍を心よりお祈り申し上げます。今後とも、北海道医療大学薬学部へのご支援とご協力をお願い申し上げます。

「北医療薬会報 31 号発行にあたり」

北海道医療大学薬学部同窓会広報委員 早坂 敬明

この度、長らくお待たせしておりました同窓会会誌を遂にお届けできる運びとなりました。皆様のお手元に届くことを、広報委員一同、心より嬉しく思っております。

今回の会誌発行までには様々な困難がありましたが、長年にわたり会誌発行にご尽力くださいました木村 真一先生がご逝去されるという、大変悲しい出来事がございました。木村 真一先生のご冥福を心よりお祈り申し上げますとともに、これまでのご貢献に深く感謝申し上げます。

また、多くの同窓生のご協力とご支援のおかげで、こうして発行に至ることができました。この場をお借りして、改めて深く感謝申し上げます。

さて、今回の会誌は、創刊以来、長年親しまれてきた紙媒体での発行を終了し、電子媒体での発行へと生まれ変わりました。時代の変化に対応し、より多くの方々に、より手軽に会誌をお楽しみいただけるよう、新たな試みとして電子媒体での発行を決断いたしました。

電子媒体での発行は、私たち広報委員会にとっても新たな挑戦であり、至らぬ点もあるかと存じますが、皆様に喜んでいただける会誌を目指し、精一杯努めてまいります。

今後とも、同窓会活動へのご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

第 45 回 北医療薬 総会および懇親会について

令和 6 年 8 月 31 日（土）に北医療薬 総会および懇親会が ANA クラウンプラザホテル札幌で開催されました。総会での審議事項として、令和 5 年度の事業報告および収支決算等が報告されました。桂会長から、「五十にして天命を知る」という孔子の言葉を引用し、「50 歳を超え、自らの役割や使命について深く考えるようになった。今後、大学に対する支援など、新たに同窓会としての支援について考えていきたい。」とのお言葉がありました。

講演終了後には 4 年ぶりに懇親会が開催され、多くの同窓生にご参加頂きました。懇親会では、同窓生である浜上 尚也先生より、薬学部長就任にあたりご挨拶を賜りました。コロナ禍で久しぶりの懇親会の開催となりましたが、参加者の皆様の笑顔があふれ、旧交を温める会となりました。



第 5 回 薬学部同窓会 「卒業生・在校生合同懇談会」の報告

令和 6 年 10 月 21 日（月）に薬学部同窓会が主催し、第 5 回卒業生・在校生合同懇談会が ANA クラウンプラザホテル札幌で開催されました。

本懇談会は、在學生と同窓生が交流することで、実際に仕事に関する認識を深めるとともに、悩みや不安を話し相談する機会を提供するという趣旨のもとに企画され、今回が 5 回目の開催となりました。

本学薬学部 4 年生も多数参加し、先輩の同窓生の方々に就職やキャリアプランに関する悩みについての相談をすることができ、大変有意義な会となりました。

本懇談会は、コロナ禍のため延期や中止が続いておりましたが、改めて、人と人が直接話し合える大切さを実感する機会となりました。



定年退職される先生をご紹介します。

令和 7 年 3 月をもちまして、飯塚 健治 教授 薬理学講座(病態生理学)が定年退職されました。
令和 7 年 2 月 25 日に飯塚先生による最終講義「導かれた日々と北海道医療大学に感謝を込めて」が行われました。北海道医療大学の薬学教育への多大なご貢献に心より感謝致します。

定年退職される先生からのメッセージ

定年を迎えて

薬理学講座（病態生理学） 飯 塚 健 治 教授

平成 17 年（2005 年）7 月に着任以来、約 20 年の月日が矢の様に過ぎ去り、定年を迎えることになりました。北海道大学病院を皮切りに、道内の様々な規模の病院を巡りながら、一方で地域に根ざしたクリニックでの診療や巡回健康診断など、多種多様な臨床場面を経験してきました。また、多くの先生方のお導きで医科部門だけでなく臨床検査部門、そして医療大学で過ごさせていただいた薬学部や薬剤部門での経験は、患者さんを取り巻く文字どおり多職種の結びつきや役割を身を以て経験することになり、日常診療を行う上でもかけがえのない財産となりました。



私が着任した当時の薬学部は、いよいよ 6 年制が開始されるとのことでカリキュラムの改訂が始まり、今では当たり前となった異なるカリキュラムの学生の混在が始まりました。シラバスは分冊となり、新カリキュラムの科目移動によって薬理実習が年に 2 回行われることがあるなど、混迷を極めた時期がありました。その様な中で、2009 年には新型インフルエンザの大流行が始まり、歯科内科クリニックの外来に山の様な数の学生さんや職員が来院され、やがて一部の学部で学年閉鎖へと拡大して行ったのが思い出されます。2011 年 3 月には東日本大震災が起こりました。これまで経験したことが無い様なゆっくりとした揺れが大学校舎でも長時間続き、学生・大学院生の状況や、器具や機械への影響確認のため実験室へ走った事を覚えています。また 2018 年 9 月には今度は胆振東部地震が発生し、長時間の停電が医療機関の脅威となるなか、紙ベースでの病院診療を余儀なくされたことが鮮明に記憶されています。そして極めつけは、2020 年 4 月に COVID-19 の感染拡大に対する緊急事態宣言が発令され、大学では驚くべきスピードで遠隔講義の準備が進められ、学生さん達への講義資料の送付と、やがて誰も居ない広い講義室で一人で講義を行う日々が続き、当時からこれはもう凄い体験をしているんだなと感じていたのを忘れることが出来ません。

2015 年に発行された本報第 26 号での教授就任のご挨拶でも書かせていただいた通り、薬学部の中では比較的歴史の浅い病態生理学講座ではありましたが、初代教授の井出肇先生や、その後を引き継がれた 2 代目教授の富樫廣子先生を初め、講座に関わった数多くの皆様の思いや実績を大切にしながらこれらを引き継いで運営することを中心に、大きく変化する医療と患者さんの観点からも仕事を続けてきたつもりでしたが、それで良かったかどうかは今も分からずじまいです。何しろ大学を巡る情

勢は近年劇的に変化しており、これからはこれまでにない新しい発想も求められて行くかと思われま
す。

教職員や本学関係者の皆様のお力添えによりこれまで何とかやって参りました。心より感謝を申し
上げます。間もなくやって来る新天地北広島での新たな出発が本学の発展と革新に繋がりますことを
心より祈念致します。学生の皆様色々有り難うございました、もしもどこかで見かけたらお声がけく
ださい。薬学部同窓会の発展と皆様の益々のご活躍を祈念致します。色々とお世話になり有り難うご
さいました。



医療職体験ビレッジ ～見る知る医療・福祉系専門職～ 開催報告

22 期 薬理学講座（薬理学） 町田 拓自

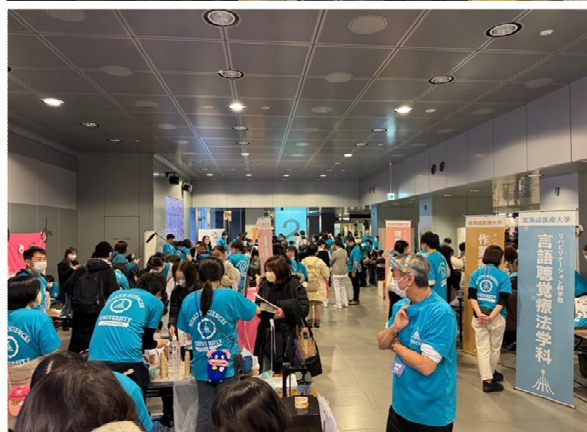
令和 6 年 12 月 26 日（木）、札幌駅前通地下歩行空間において医療職体験ビレッジが開催されまし
た。本イベントは、本学の養成する医療系職種（薬剤師・歯科医師・看護師・社会福祉士・公認心理
師・理学療法士・作業療法士・言語聴覚士・臨床検査技師・歯科衛生士）の職業理解を深め、小学生
～高校生、広く一般の方も含めて医療職や医療の学びを知ってもらうための機会として企画されたも
ので、本学が主催し、また札幌薬剤師会をはじめ、多くの職能団体の後援をいただいて開催されまし
た。

本イベントでは 6 学部 9 学科に加え、歯学部附属歯科衛生士専門学校がそれぞれブースを構え、各
職種に関係することを体験して頂きました。冬休み中ということもあり、11 時～15 時までの開催時
間の間に医療職体験ビレッジ全体で小学生から高校生までの参加者が 189 名、保護者を含めると 300
名弱が参加し、大盛況のうちに終了しました。

薬学部ブースでは「薬剤師のお仕事体験～分包してみよう～」というタイトルで参加者に分包調剤
体験をいただきました。具体的には、参加者にラムネなどのお菓子を錠剤に見立てて分包機を用いて
一包化していただきました。分包したお菓子は各ご家庭に持って帰れるということもあり、参加者には
大変好評でした。薬学部ブースにおける体験内容については本学の卒業生でもある鹿内 浩樹先生
（29 期）、進藤 つぐみ先生（42 期）、山本 隆弘先生（43 期）、町田（22 期）の 4 名で企画を行い、

当日の運営はこの教員 4 名に加えて、在学生 6 名、さらに北海高校の生徒 2 名がボランティアとして参画しました。在学生および高校生ボランティアも各々の役割を認識し、スムーズな運営を行ってくれて、非常に頼もしい印象を受けました。最終的には 139 名の小学生～高校生に薬学部ブースを訪れいただき、保護者の方も含め、大変満足していただいている様子でした。

超少子高齢化社会の中で多くの大学が困難な状況に陥りつつあり、本学も決して例外ではありません。今後も北海道医療大学ならではの魅力を発信しつづけ、広く国民の皆様に本学を認知してもらうことが重要と考えています。特に今年度からは多くの同窓会の先生のお力をお借りし、広報活動を行っております。今後とも変わらぬご支援、ご協力をお願い申し上げます。



薬学部特別イベント 「薬剤師を体験しよう in 青森」 開催報告

29 期 薬理学講座（病態生理学）鹿内 浩樹

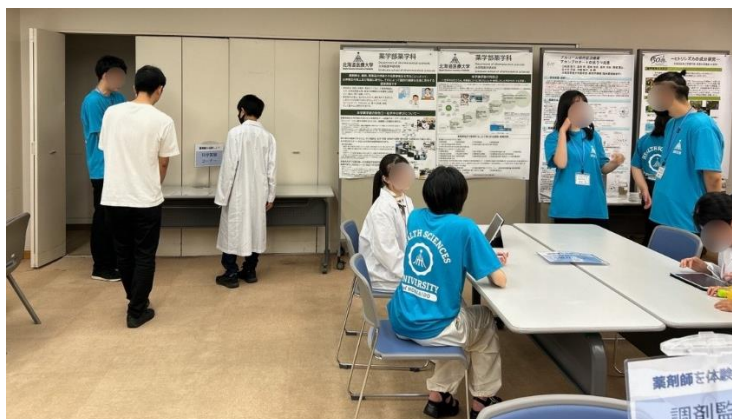
2024 年 8 月 10 日（土）に青森県青森市の公共施設アウガ 5 階「青森市男女共同参画プラザ カダール」研修室で、薬学部特別イベント「薬剤師を体験しよう in 青森」が盛況のうちに開催されました。このイベントは、青森県の高校生に向けて薬剤師の仕事や薬学部での学びを実際に体験してもらうことを目的としており、2023 年から始まった取り組みです。

企画と運営には、薬学部広報企画委員会のメンバーである金尚永先生、志賀咲紀先生（40 期）、長

瀬雅揮先生（43 期）、鹿内（29 期）が参加しました。さらに、青森在住本学 0B である川元裕史先生（5 期、後援会東北支部長）と山本亮平先生（39 期）も協力してくださり、本学後援会と青森市薬剤師会の後援のもと実施されました。

イベント当日は、青森県出身の学生スタッフ 6 名が、参加した高校生一人ひとりに対して丁寧にサポートしながら、錠剤の粉碎や分包調剤、軟膏の調剤など、薬剤師の調剤業務を体験してもらいました。また、参加高校生からは、大学生活や一人暮らしに関する多くの質問が寄せられ、学生スタッフは実体験に基づいた回答を提供し、大いに盛り上がりました。さらに、青森県を主としたイベントではありますが、昨年度は岩手県から、今年度には秋田県からの参加者も見られるなど、地域を超えて注目されていることが確認されました。

18 歳人口の減少による学生確保の厳しい状況は、本学に限らず全国の大学が直面しています。本学薬学部としては、この状況に対応するべく今後も道外でも広報活動を展開し、本学の知名度の向上と薬学の魅力を発信し続けていきたいと思っております。皆様のご支援とご協力を心よりお願い申し上げます。



医療職体験ビレッジ in 函館 開催報告

40 期 薬理学講座(薬理学) 志賀 咲紀

2024 年 12 月 21 日（土）、函館蔦屋書店にて、本校と同窓会道南支部が共催した「医療職体験イベント」を開催しました。本イベントは、地域の子どもたちをはじめ、多くの方々に医療の現場を身近に感じていただくことを目的として開催されました。札幌以外の地方では初めて実現した試みでしたが、会場は多くの参加者で賑わい、大盛況のうちに終了しました。

薬学部のブースでは、薬剤師の業務を体験できる分包調剤や、薬学部で使用する実験機器を用いたアロマスプレー作りを実施しました。お菓子を薬に見立てた分包体験では、薬剤師が日々行う緻密な作業をリアルに体感していただき、参加者からは「薬剤師の仕事の一端を初めて知ることができた」「薬剤師さんって本当にすごい!」といった声が寄せられました。また、アロマスプレー作りでは、学生スタッフの指導のもと、参加者それぞれが好みの香りを選び、世界に一つだけのオリジナルスプレーを完成させました。このアロマスプレーは、癒しをもたらすだけでなく、消臭・除菌といった実用的な効果も期待できることを紹介し、参加者から高い関心が寄せられました。この体験を通じて、薬剤師が持つ知識と技術が日常生活の中でも役立つことを知ってもらう機会となりました。

このイベントは、参加者にとって薬剤師への興味を深める場となっただけではなく、大学と地域の新たなつながりを築く貴重な機会となりました。今後は、全道各地でこのような取り組みを展開し、地域に貢献していきたいと考えています。

最後に、本イベントが成功を収めたのは、地元薬剤師の先生方をはじめとする多くの方々のご尽力の賜物です。お忙しい中ご参加くださった同窓会道南支部の先生方、サポートしてくださった学生スタッフおよび地元高校から参加していただいたボランティアスタッフに心より感謝申し上げます。また、多くの同窓生の先生方にもご来場いただき、懐かしい顔ぶれが集う中で、世代を超えた絆が新たに深まる場となったことを大変嬉しく思います。このような交流が、今後の地域医療や教育の未来を共に築く礎となることを願っています。



13 期同期会の開催

13 期 実務薬学講座（実務薬学教育研究） 早坂 敬明

2024 年 8 月 10 日（土）に、13 期同期会をすすきので開催いたしました。有志での集まりでしたが、会では、近況報告や仕事の話、家族の話など、話題は尽きることなく、時間が経つのを忘れてしまうほどでした。卒業後、それぞれの道を歩んできた私たちですが、学生時代を共に過ごした仲間との絆は、年月を経ても変わらないものであることを改めて実感しました。参加者からは、「またすぐに集まりたい」「今度はもっと多くの仲間と再会したい」といった声が多数寄せられました。今回の同期会を機に、今後も定期的に集まり、旧交を温め合える場を設けていきたいと思えます。2025 年は北海道薬学大会での開催を予定しております。また、コロナ禍で開催できなかった卒後 30 周年の祝賀会のリベンジをしようと話し合いました。

最後に、ご多忙の中ご参加いただいた皆様に心から感謝申し上げます。次回の再会を、楽しみにしています。



16 期生《平成 5 年卒（平成元年入学）》 卒後 30 周年同期会開催

16 期 実務薬学講座（病院薬学） 高村 茂生

コロナの影響で延期となっていた 16 期生の卒後 30 周年同期会が、2024 年 6 月 15 日（土）に京王プラザホテル札幌にて開催され、全国各地から 35 名の同期が集まりました。学生時代を懐かしみながら、楽しいひとときを過ごすことができました。

また、2028 年度の北広島キャンパスへの移転を前に、かつての学び舎である当別キャンパスも見納めになることから、同期会の翌日には九十九祭に合わせてキャンパス見学会も実施しました。自分たちが学んだ講義室やゼミ室、実験室を巡り、さらに 10 階建ての講義棟も見学することができました。

最後に、次回は北広島キャンパスへの移転後、私たちが還暦を迎える 2030 年に再会することを約束し、散会となりました。





編集後記

会誌にご寄稿いただいた皆様、本当にありがとうございました。皆様の多岐にわたるご活躍は、私たち編集委員一同にとって大きな刺激となりました。この会誌が、皆様の素晴らしい歩みを共有し、互いに励まし合う機会となれば幸いです。

(M. H.)